

位置図



大日川洪水氾濫危険区域図

この図は、大日川流域に50年に1回程度起こる豪雨（時間雨量強度61mm/h）により、堤防が決壊した場合の洪水氾濫危険区域図です。
ただし、大日川の支川や水路のはん濫、高潮や流木等によるはん濫は考慮していません。

※ 図面上の浸水状況は、平成16年度災害のような大規模豪雨を想定して、基本高水の設定の前提となる降雨（計画降雨）を超えた降雨条件で解析した結果を図示したものです。そのため、計画降雨に基づいて作成するよう水防法で定められた「浸水想定区域図」とは異なるものです。

大日川洪水氾濫危険区域図説明文

- ・この図は、大日川の対象区間^{※1}について、大日川の堤防が決壊または堤防から水があふれた場合をシミュレーションし、想定される氾濫危険区域と水深等を示したものです。
- ・氾濫危険区域や浸水深は、時間経過で変化します。この図は、それぞれの場所での浸水深が最大となる状況を表したもので、氾濫危険区域は最大を表しています。
- ・想定している降雨は、概ね50年に1回程度^{※2}起こる大雨（時間雨量強度61mm/h）です。
- ・想定している洪水流量は、小松川合流部で最大70m³/sです。
- ・シミュレーションは、想定している洪水流量が増加しながら河川を流下し、はん濫危険水位^{※3}に達した時点で堤防を決壊させています。
- ・堤防の決壊は、堤防が1時間かけて約70mにわたり無くなると仮定しています。
- ・シミュレーションにあたっては、中山川水位として計画高水位を想定しています。
- ・浸水の想定は、大日川の支川や水路のはん濫、想定を超える洪水流量の発生や高潮、流木による河溜閉塞等がもたらすはん濫等を考慮していません。このため、氾濫危険区域以外の区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際と異なる場合があります。
- ・シミュレーションは、氾濫区域を50mメッシュに分割し、平均地盤高を使用して計算しています。このため、局所的な地形の変化による浸水の影響が表せていない場合があります。

- ※1 対象区間は、大日川の川原谷地先から小松川合流部までです。
- ※2 想定降雨の確率規模は、大日川の規模や背後地の重要度、また西条市におけるその他重要水防河川との関係を検討して設定しています。
- ※3 はん濫危険水位は、堤防のある場所では堤防上面から0.6m下がりとし、堤防のない凹込み部では河岸高としています。ただし、断面幅が規定に満たない堤防は、現況の堤防高を規定の断面が確保できる高さに置き換えています。

凡例

浸水した場合に想定される水深（ランク別）

- 0.5m未満の区域
- 0.5～1.0m未満の区域
- 1.0～2.0m未満の区域

洪水氾濫危険区域の対象区間

0 250 500 1,000 m

1:10,000